

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。
・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

里山保全活動 ふれあいピオートの整備



12月16日(金)13時～、総合博物館、CSRのメンバー10人が参加して、ふれあいピオートの整備作業を行いました。まずは、事前に刈っておいたヨシを集め、ピオートの外に持ち出しました。

ピオート上流部は湧き水が出ており、以前は湿地特有の植物も生育する環境でしたが、荒鹿が進んできたため、博物館の清水先生にチェーンソーや刈り払い機を使って不要な枝や草を伐採していただきました。学生のみなさんも協力して水辺の泥上げをしました。↓



キャンパスのピオートには、アカハライモリをはじめ多くの水生生物が生息していました。しかし、アメリカザリガニが入ってきて数が激減しています。今回整備をした上流部は、まだアメリカザリガニを確認していないので、なんとか元来の生き物に戻ってきてほしいとの期待を込めて、作業を行いました。

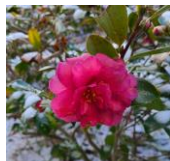
キャンパスのサザンカ サザンカは、ツバキ科ツバキ属の一種で、日本の固有種。

サザンカはツバキと性質がよく似ていますが、以下の点で区別されます。

- * 新梢、葉柄、葉の裏面の中央脈、子房に短い毛がある。
 - * 花が終わると一枚ずつぼろぼろと散る。
 - * ツバキは早春から春に咲くが、サザンカの野生種は、晩秋から咲く。ツバキより耐寒性が弱い。
- ⇒野生種は、山口県、四国、九州、沖縄に分布。



サザンカ



獅子頭

サザンカは園芸品種も多く、サザンカから作出された品種群、カンツバキ(サザンカ獅子頭)を中心に作出された品種群、ツバキとサザンカの交雑種のハルサザンカを中心に作出された品種群の3つの園芸品種群があります。

大温室で栽培されているヒメサザンカ。琉球列島に自生。葉や花がサザンカより小さい。→



寒波と雪景色

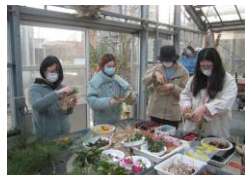


年末から新年にかけて寒波が到来し、園内も何度か雪に覆われました。生態実験園は、谷間になっているため雪が積もりやすく、大学内とは思えない雪景色を見ることが出来ます。

園内の苗や鉢物は、寒さを防ぐために、ネットをかけたい温室に取り込んだりして対策をしています。



栽培実習・R4 年秋コース



学内の植物を使って、しめ縄作りにも挑戦しました。

R4 年秋コースが終了しました。今回、11回の実習を行いました。3名の方が全出席でした。その他の方も、欠席した方は個別に作業をされるなど、みなさん非常に熱心に取り組んでいただきました。その成果もあって、野菜も良く育ち、しっかりと収穫することが出来ました。



園内の緑化

植物園では、学内緑化のために花苗を育成し、提供しています。花苗は、温室に種をまき、ポットに移植して戸外で育苗します。作った花苗を利用して、温室前の広場などにも植栽し、園内の緑化を行っています。植物園にお越しの際は、ベンチ前の花も、ぜひお楽しみ下さい。



ひまわり保育園のサツマイモ掘り

11月2日、ひまわり保育園の園児たちが、サツマイモ掘りを行いました。今年は、鳴門金時、紅あずまの2品種でした。小さなスコップを片手に、園児たちは苦戦しながらも、がんばって掘りました。この行事は、保育園の秋の自然体験として、毎年行っています。



園内の花

リュウキュウツツフキ

Farfugium japonicum var. luchuense



キク科 ツツフキの変種で琉球列島の山地に分布する深流適応性植物。葉が扇形で、葉縁が切れ込み先端が尖るのが特徴。花期は11-2月。

園内の花

ボケ *Chaenomeles speciosa*



バラ科

中国原産。平安時代に渡来し、観賞用に栽培されている。花期は3-5月。秋になる実はカリンに似た形をしている。日本に自生するボケは、クサボケといわれる同属の植物。



【お問い合わせ先】

広島大学 統合生命科学研究科
東広島植物園

TEL:082-422-7111
(内線2842)

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp